

## WEEKLY BULLETIN

会報 2016-2017

6月1日(木) 第41号  
第2834回例会  
第2510地区

●本日のロータリーソング 君が代、四つのテスト

Rotary



## 新会員卓話 札幌東ロータリークラブ

本日のプログラム

## 中小企業とLGBT

井上税務会計事務所所長 井上 奈穂子 氏



## ■岡村 光浩 会員

私は、昭和40年生まれ51歳。現在、三井不動産リアルティ札幌という会社で代表を務めております。出身は東京都で、そこで両親と4つ上の姉の4人家族で育ちました。父親は税理士で、母親は父の手伝いをしておりました。子供の頃は人見知りであり前へ出るタイプではありませんでしたが、優等生ポジションだったと思います。高校・大学では様々なアルバイトをしましたが、サークル活動などが中心でなんとなくフワフワした学生生活を送っていました。

私が入社した1988年はいわゆるバブル景気の真っ盛りで、数億円もするような新築マンションの販売開始に2日前からお客様が並ぶようなこともありました。都心のマンションが1坪あたり2,000万とか2,500万、総額で10億や20億したりというのも決して珍しいことではありませんでした。そんな都心部での仕事では、自分の営業数字しか目に留まらず、また高額な取引をしたことが自分の実力かのように勘違いしていくことになっていました。その後バブル崩壊となり東京郊外の子会社に出向となって、やっと自分の仕事を振り返ることになりました。この子会社で約5年間を過ごすわけですが、仕事やお客様に対して誠実で謙虚でいることや人生に深く関わるような買い物のお手伝いをしている責任など、自分の仕事というものをきちんと見つめ直すことができた時期でした。20代後半から30代にかけてのこうした経験は、私にとっては本当の意味での社会人1年目だったように思いますし、最初の人生の転機でありました。

その後本社へ戻りましたが、今度は組織プレーや何百人もいる会社組織での振る舞い方が全くわからない有様でした。また新規事業立ち上げに関わったのですが、当時の私は仕事に対しての向き合い方が中途半端で、事業を立ち上げていく気迫のようなものがかけていました。そしてプライベートでも様々な問題を抱え、経済的にも苦しく、公私にわたって重苦しい10年になっていました。ただこの時期の経験を通して、仕事や家庭に対する向き合い方を真剣に考えることになりました。そのきっかけになったのは、残念ながら父親、義理の母親、妹

とたてつづけに家族を亡くしたことでした。私も家族も自分たちの人生観みたいなのをもう1度見直す必要がありました。自分が何のために働いているのか、何をしていることが幸せなのか再認識でき、お金や自己満足ではなく、健康や家族、周りの人間との関わりが本当に欠かせないものであるとようやく気づき、今でいうワークバランスを見直すことになりました。不思議なものでそんな心持ちと生活をしていると、なぜか公私ともに歯車がかみ合ったように物事がうまくいくようになりました。

そして50代になり、昨年生まれてはじめて転勤をすることとなり、また会社の代表という職を任命されることとなりました。わたくしにとっては、また新しい転機が訪れたと思っています。以前は、業績や効率のことばかりを考えていましたが、私が今まで周りの方に教えてもらいながら考え方を修正してきたように、今はとにかく次の世代や若い社員を育てていくことに注力しています。そして私自身も、今までお話したように失敗や挫折ばかりの社会人人生ではありますが、まだまだ成長して次のステージを目指していきたいと考えています。この札幌東ロータリーでの活動では、皆さんとお会いし、お話することで大変勉強させてもらっています。世代を超えた個人としてのお付き合いや社会奉仕活動など、今までは全く縁がない日々でしたが、ロータリー活動を通して自分なりに吸収していこうと思っています。この素晴らしい北海道の環境で、たくさん仕事し、たくさん遊んで、公私ともに充実した時間を過ごしたいと思います。また、ぜひ皆様とも色々な場面で交流させていただきたいと思いますので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

マンスリー  
メモ

## 喫煙(Smoking)

喫煙は健康に有害であるため、会員ならびに来賓は各自、会合やそのほかのロータリー関連の行事の間、喫煙しないよう奨励される(RI細則2.050)。